



2026 年 6 月 9 日

### 2026 年 6 月金融政策決定会合の注目点

～ 強まる利上げ観測、2 兆円程度の国債買入継続でも正常化は十分進展 ～

公益財団法人 国際通貨研究所  
経済調査部 上席研究員 久後 翔太郎

#### < 要旨 >

- ◆ 2026 年 6 月 15・16 日に開催される金融政策決定会合で、日銀が 0.25%pt の利上げに踏み切るとの観測が強まっている。もっとも、利上げが実施されたとしても、日銀は、一段の円安進行を通じた物価上昇リスクを抑制するため、タカ派的なスタンスを市場に示し続けるとみている。
- ◆ もう一つの焦点は、「長期国債買入れの減額計画」の中間評価だ。2027 年 3 月までは現行計画に沿って長期国債の買入れ額を減額する公算が大きい。2027 年 4 月以降について、当研究所の試算では、買入れ額を「2 兆円程度」に維持する場合でも、今後 10 年間で日銀の保有国債は 300 兆円程度減少する。この規模であれば、保有残高の減少を通じて金融政策の正常化を着実に進めつつ、長期金利の上昇圧力の強まりを緩やかなペースにとどめることができると考えられる。

## 1. 2026年6月の金融政策決定会合で日銀が利上げに踏み切るとの観測が強まる

2026年6月15・16日に開催される金融政策決定会合で、日本銀行（以下、日銀）が0.25%ptの利上げに踏み切るとの観測が強まっている。6月3日の講演で、植田和男・日銀総裁はタカ派的なスタンスを市場に印象付けた。利上げを市場に織り込ませる意図があったとみられる。

日銀がタカ派色を強めた背景の1つには、原油高で予想物価上昇率が高まるなか、利上げの見送りに伴う円安の加速が先行きの物価を一段と押し上げることへの強い警戒があるとみられる。

加えて、政府が補正予算の編成に踏み切ったことも、日銀がタカ派色を強める一因として働いた可能性がある。中東情勢の緊迫化という典型的な負の供給ショックの下、日本経済は景気の停滞と物価の上昇という2つのリスクに同時に直面している。補正予算の編成により、景気停滞への懸念は一定程度和らいでも、経済全体の需給の引き締めりを通じて物価上昇リスクは高まりかねない。さらに、財政状況の悪化懸念などを背景に円安圧力が強まれば、需給面に加え輸入物価の上昇という側面からも、先行きの物価上昇リスクが高まる。こうした経路を通じた中長期的な物価上昇リスクへの警戒の強まりも、利上げを後押しする材料となったとみられる。

もっとも、Fedの利上げ観測も強まっており、円安圧力は根強い。更なる円安の進行で物価上昇圧力が一段と強まるリスクを抑制するため、利上げが実施された場合でも、日銀はタカ派的なスタンスを市場に示し続けるだろう。

## 2. 長期国債買入れの減額計画：2027年4月以降の買入れ方針が焦点

6月の金融政策決定会合では、利上げの有無に加え、長期国債買入れ減額計画の中間評価も注目される。具体的には、①2025年6月に公表した2027年3月までの買入れ計画を変更するか、②2027年4月以降の買入れ計画の詳細、という2点である。

### 2.1 2027年3月までの買入れ計画：現行計画の維持が濃厚

2027年3月までの買入れ計画<sup>1</sup>が変更される可能性は低いだろう。長期金利が上昇傾向にあるなかで、敢えて減額ペースを速める理由はない。反対に、買入れの減額ペースを緩める方向での変更が示されれば、長期金利の上昇を抑制する意図があると市場に受け止められる恐れがある。こうした見方が広がれば、リスクプレミアムの拡大を通じて、中長期的にはかえって長期金利を押し上げかねない。「債券市場参加者会合<sup>2</sup>」でも現行計画の維持を求める意見が複数寄せられており、こうした点を踏まえれば、現行の長期国債買入れ減額計画を維持することが妥当だろう。

<sup>1</sup> 現在の減額計画では、2026年4月から2027年3月までは、原則として毎四半期2,000億円ずつ減額し、2027年1～3月時点で月間買入れ予定額は2兆円程度とされている。

<sup>2</sup> 日本銀行(2026)『[『債券市場参加者会合』第24回議事要旨](#)』、2026年6月2日。

## 2.2 2027年4月以降の買入れ計画：月間2兆円程度でも正常化は十分進展

2027年4月以降の買入れ額については、「債券市場参加者会合」で多様な意見が示された。月間の長期国債の買入れ予定額については、「2.1兆円の買入れを維持することが適切」という意見や、「1～2兆円程度を目安に減額を継続すべき」といった意見のほか、「ゼロになるまで買入れ金額を減少させるべき」という意見も挙げられた。

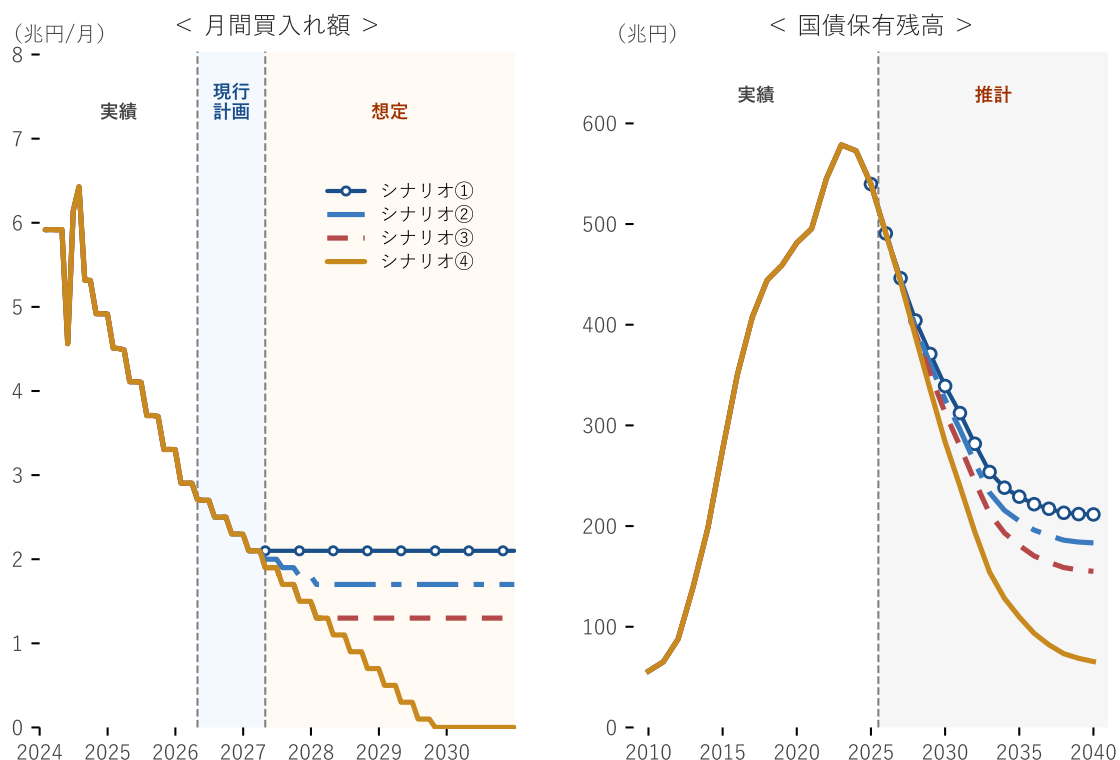
先行きの買入れ額を考えるうえで重要なのは、国債需給の急激な緩和を抑えて長期金利の上昇圧力の強まりを緩やかなペースにとどめつつ、保有残高の減少を通じて金融政策の正常化を着実に進めることである。そこで、2027年4月以降の月間買入れ額に関するシナリオごとに、日銀保有国債残高の推移を試算したものが図1である。

当研究所の試算では、2027年4月以降、「月間2兆円程度」の買入れが続いた場合（シナリオ①）でも、日銀が保有する国債は今後10年間で300兆円程度減少する。金融政策の正常化を十分に進展させることができる買入れ規模であると同時に、長期金利の上昇圧力の強まりも緩やかなペースにとどまるだろう。このため、2027年4月以降も「月間2兆円程度」の買入れペースを維持することが適切であると考えられる。

その他の試算結果を見ると、減額を継続するシナリオでは、保有残高の減少ペースはさらに速まる。シナリオ②（毎四半期1,000億円ずつ減額して月1.7兆円で維持）では今後10年間で約327兆円の減少、シナリオ③（2,000億円ずつ減額して月1.3兆円で維持）では同約352兆円の減少、シナリオ④（買入れをゼロまで縮小）では同約426兆円の減少と試算される。いずれにせよ、日銀は当面、国債保有残高を減らすことで、日銀当座預金残高を縮小させていくとみられる。

より長期的な論点としては、準備預金をどの程度の水準で保つかが重要となり、日銀による長期国債の買入れ額は最終的にはこの水準に大きく依存する。実際、FRBは準備預金がお潤沢な段階で資産縮小を終えている。いずれ日銀も、金融市場のボラティリティや資金需給のひっ迫度合いに目を配りながら、準備預金を潤沢に保てるよう、国債買入れを調整していくと考えられる。

図1 国債の月間買入れ額のシナリオ別に見た日銀保有国債残高の将来推計



	シナリオ①	シナリオ②	シナリオ③	シナリオ④
<b>想定</b>				
2027年4月以降減額ペース	減額停止	毎四半期 1,000億円	毎四半期 2,000億円	毎四半期 2,000億円
月間買入目標水準	2.1兆円/月	1.7兆円/月	1.3兆円/月	ゼロ
目標水準到達時期	2027年 1～3月	2028年 1～3月	2028年 1～3月	2029年 10～12月
<b>日銀保有国債の減少額（2026年5月末との差、兆円）</b>				
今後10年間	▲302	▲327	▲352	▲426
2030年末	▲191	▲205	▲218	▲247
2035年末	▲301	▲325	▲349	▲421
2040年末	▲319	▲347	▲375	▲465

(注)「日本銀行が保有する国債の銘柄別残高」等を用いて、日銀による毎月の国債買入れ実績から残存期間別の買入れウェイトを作成し、各シナリオの買入れ額に乗じた。これにより新規に買入れる国債の償還時期を設定でき、既存保有国債の償還と合算して先行きの保有残高を試算した。

(資料)日本銀行より国際通貨研究所作成

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2026 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: Nihon Life Nihonbashi Bldg., 8F 2-13-12, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0027, Japan

〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-13-12 日本生命日本橋ビル 8 階

e-mail: [admin@iima.or.jp](mailto:admin@iima.or.jp)

URL: <https://www.iima.or.jp>